

おおみち

第128号

令和6年(2024年)7月1日
滋賀県立安土城考古博物館

さようなら考古の常設展示！



平成四年（一九九二）の開館以来、皆さんに親しまれてきた当館の常設展示室のうち、弥生時代・古墳時代をテーマとした第一常設展示室が、本年五月二六日を以て、終了となりました。来春、安土城の調査成果を活かした映像を放映するためのシアターに生まれ変わる事になったのです。

第一常設展示室がテーマとしていた「近江風土記の丘」の史跡は、弥生時代の農耕集落である大中の湖南遺跡と、古墳時代前期の前方後円墳で県内最大（全長一三六m）を誇る瓢箪山古墳です。

前者からは、稲作に使われた木製の農耕具が大量に出土しました。完成品に加え、制作工程の各段階のものも出土していることが注目されます。考古分野の展示では、土の中で残りやすい土器や

石器が主流になりがちですが、木器中心の大中コーナーは、開館当時「土器がほとんど展示されていない珍しい展示室」と評判でした。

この時代の収蔵品としては、一箇所からの出土数が全国二位となる野洲市の大岩山出土銅鐸十口もあり、重要文化財の全点



土器も加わって充実した大中コーナー

が並ぶ開館当初の様子は壮観でした（後、野洲の銅鐸博物館に半分貸出）。

瓢箪山古墳の方では、現地で地中に埋もれている長大な竪穴式石室内部が再現されていました。館蔵の栗東市新開古墳出土甲冑類や、高島市の鴨稻荷山古墳出土の装飾品復元品などを人形にまわせた、古墳時代前期・中期・後期のそれぞれの王様の姿を比較したコーナーも人気で、その写真は小中学校の教科書等に多く載せられています。

展示室奥には、バブル期に流行した実物大ジオラマで、弥生の村の様子が再現されていました。ここには遊び心で、銅鐸に描かれているモチーフがちりばめられていました。亀やアメンボ・トンボなど、皆さんはいくつ見つけられましたか？

開館時、信長や安土城関係の収蔵品が少なく、模型やジオラマ主体だった第二常設展示室に比べて、考古資料をふんだんに展示できた第一常設展示室は、とても充実した空間になっていました。

開館した後の活動の中で、収蔵資料はどんどん増えていきます。それも踏まえ、平成一三年（二〇〇一）の「湖国21世紀記念特別企画 20世紀近江発掘ベスト10展」を機に、展示室の部分的なりリニューアルが行われました。閉鎖直前まで皆さんにご覧頂いていたのは、この時からの展示です。

ここでは、平置きでは見通しにくかった大中の湖南遺跡の復元模型を壁に立てたり、ジオラマスペースを改修して、近くで遺物や復元資料を見たり触ったりできる「しが太郎君の考古学研究室」を新設したり、八幡社古墳群（東近江市）の横穴式

石室の一つの模型内に入れるようにするなど、体験的要素が多く取り入れられました。

展示ケースの数こそ変わりませんが、資料の点数を増やすことで、展示をより充実させました。新たな寄託品として迎えられた、東近江市の雪野山古墳出土品（平成二五年度末に所蔵者に返還し現在は複製品で展示）や米原市の山津照神社古墳出土品などは、それぞれのコーナーが作られました。木器だけでなく土器類や玉・楽器などバラエティ豊かになった大中の湖南遺跡のケース、日本最大銅鐸（大岩山遺跡出土で東京国立博物館所蔵）の実物大写真パネルと最小銅鐸（栗東市下鈎遺跡）も加えた大岩山銅鐸ケースなど、所狭しと遺物が並んだ空間に、満足された方も多かったのではないのでしょうか。

そのような展示室が閉まったことは、たいへん残念ではありますが、豊富に収蔵された考古資料は、企画展示室などで機会を見ては公開していく予定ですので、今後の考古展示も楽しみに、来館いただきたく思います。（高木叙子）



鴨稻荷山古墳コーナー（左）と山津照神社古墳コーナー（右）

収蔵資料紹介

きりはなもんかざりがわら

桐花紋飾瓦

近世初頭

近江八幡市惣見寺蔵

最近のニュースで令和8年のNHK大河ドラマのタイトルが『豊臣兄弟！』になると報道されました。全国統一を成し遂げた豊臣秀吉の弟である秀長を主人公とし、兄弟の絆をテーマにする内容になるとか。放送を楽しみに待ちたいものです。

さて、『豊臣』といえば桐の文様を連想される方も多いのではないのでしょうか。日本において桐の文様は皇室から用いられはじめたものですが、貴族や武家に下賜されたため、様々な工芸品にも使われました。特に秀吉が諸大名に桐紋を下賜したこともあってか、桃山時代の物品には、桐の文様があしらわれたものが多く認められます。その中には瓦も含まれており、桃山時代に使われたと考えられる城や館、寺跡から、桐の文様を付した瓦がたびたび出土します。中には兵庫県の姫路城や広島県の宮島千畳閣のように、現役で葺かれている建物もあります。

ところで、桃山時代以前に築かれた安土城でも桐の文様を付した瓦が見つかっているのはご存じでしょうか。今回紹介するのは、当館で保管している桐花紋飾瓦です。詳細な採集地は不明ですが、右側の写真の資料は昭和三五年〜三九年にかけて実施された修理工事の際に二ノ丸下の帯郭から出土しているものと酷似していますし、左側の写真

の資料は、黒鉄門下で出土しているものと酷似しています。さらに他の城跡で類例が無いため、両者とも安土城跡内で採集されたものと考えられます。

二点は屋根のどこで使用されたのでしょうか。右側の写真の瓦は背面にソケットがあるため、屋根の棟に差し込まれていたのだと推測されます。そして他方は類似品との比較から、棟の端を飾る鬼瓦の一部だと考えられます。棟は建物の高所を構成しているもので、両者も屋根上で目立っていたことでしょう。近世以降、建物の棟を構成する瓦は形のバリエーションが増え、様々な文様が付けられるようになっていきます。そうした近世の豪華な棟の装飾は、実は安土城に始まっているのです。安土城は近世城郭の嚆矢として評価されていますが、その理由の一つには棟を飾る多様な瓦の存在もあるのです。

(佐藤佑樹)



桐花紋飾瓦（鬼瓦の一部）



桐花紋飾瓦（棟込瓦）

新しい安土城考古博物館にむかって

平成四年秋に開館した安土城考古博物館は、近江風土記の丘に点在する史跡をテーマとする博物館として、平成の特別史跡安土城跡調査整備事業の成果をタイムリーに発信してまいりました。令和の大調査のスタートに合わせ、これまで以上に安土城や信長の情報を発信するため、二室ある常設展示室を、安土城・信長・戦国をテーマとしたものにリニューアルすることとなりました。

まず第一次リニューアルとして、令和五年度に、第一展示室の改修工事に着手しました。ここでは、安土城主五階部分をイメージさせる八角形のシアターに改修し、シアターの形状を利用した多面スクリーンに、信長や安土城についての最新情報を最新のデジタル技術を活用して映像化し、上映します。多面スクリーンを用いて没入感のある、他では見られない個性的な映像空間を創出することを目指しています。

改修工事は、令和五年度と六年度の二ヶ年で実施し、令和七年春にはリニューアルオープンの予定です。新しく生まれ変わる安土城考古博物館にご期待ください。

(滋賀県文化財保護課)



第1展示室改修イメージ

特別陳列Ⅰ 近江の遺跡発掘調査①「古代国家と鉄」 9月26日(木)～10月31日(木)		休館(リニューアル工事のため) 5月27日(月)～9月2日(月)		
10月		9月	8月	7月
28日(月)	休館日	30日(月)	休館日	博物館の主な催し 工事中は、入館はできませんが公園はご利用いただけます。 また、屋外での体験学習については実施できるメニューがありますので、 ご相談ください。 9月3日(火)から開館、常設展が観覧できます。
21日(月)	休館日	28日(土)	連続講座Ⅰ①「古代国家と近江の鉄」キックオフ講座 講師：大道和人(当館)〈当日受付〉	
20日(日)	城郭探訪「観音寺城跡と桑貫寺」〈要予約〉	24日(火)	休館日	
19日(土)	連続講座Ⅰ④「藤原仲麻呂政権と近江の鉄」(仮) 講師：山崎公輔氏(大津市文化財保護課)〈当日受付〉	17日(火)	休館日	
15日(火)	休館日	9日(月)	休館日	
13日(日)	14日(月・祝) 家族で楽しむ！秋の体験博物館 古代の勾玉を造ろう！「勾玉作り体験」	3日(火)	開館 臨時休館	
12日(土)	連続講座Ⅰ③「継体大王・藤原氏と高島の鉄」(仮) 講師：宮崎雅充氏(高島市観光振興課)〈当日受付〉	2日(月)	臨時休館	
7日(月)	休館日	28日(土)	連続講座Ⅰ②「前方後円墳体制と粟太の鉄」(仮) 講師：近藤広氏(公益財団法人栗東市スポーツ協会)〈当日受付〉	
6日(日)	城郭探訪「安土城跡」〈要予約〉	30日(月)	休館日	
5日(土)	連続講座Ⅰ②「前方後円墳体制と粟太の鉄」(仮) 講師：近藤広氏(公益財団法人栗東市スポーツ協会)〈当日受付〉			

博物館の主な催し

工事中は、入館はできませんが公園はご利用いただけます。
 また、屋外での体験学習については実施できるメニューがありますので、
 ご相談ください。
 9月3日(火)から開館、常設展が観覧できます。

親子たいけん博物館

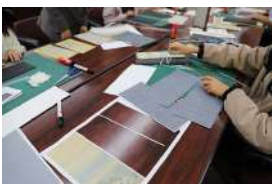
**「ミニ屏風をつくろう！」
を開催しました**

令和6年3月24日(日)、第69回企画展「近江の文化財を継ぐ―修理・複製・復元―」の関連行事として、ミニ屏風をつくるイベントを開催しました。

現代の子どもたちにはなじみのない屏風。屏風とはなにか。どうやって使うものなのか、どのような構造をしているのか。また、表装や文化財修理など、文化財と文化財の保存に関心を深めてもらう目的で開催しました。

最初に展示室で、仙人が豊かな表情で一扇ずつに描かれた六曲一双の江戸時代の屏風「仙人図 望月玉蟾筆」を鑑賞。次に学芸員による修理・表装の工程の紹介。そして、メインイベントのミニ屏風づくりをおこないました。

親子で、約1時間半、文化財およびその保存の学習と、ミニ屏風づくりの体験をおこないました。まったく知らなかった屏風も、実際に作ってみると身近なものになったかと思えます。



※連続講座の会場は当館セミナールームです。

※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

※城郭探訪は事前申込制となっております。詳細は、電話でお問い合わせください。なお、当館ホームページおよび講座の広報チラシでもご確認ください。

※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち 第128号
 令和6年(2024年) 7月1日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館
 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678 TEL0748-46-2424
 E-mail : gakugei@azuchi-museum.or.jp URL : https://www.azuchi-museum.or.jp